



第五中学校だより

「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」

令和7年12月
新座市立第五中学校
新座市野寺 4-8-1



個別最適な学びと協働的な学び

校長 伊藤 進

11月中旬頃から急に気温が下がり、秋の深まりを感じる季節となりました。インフルエンザの流行期に入り、本校でも11月にインフルエンザの罹患者が増加し、6学級で学級閉鎖の措置をとりました。その後は急激な感染拡大は見られていませんが、引き続き感染症予防対策の徹底をお願いいたします。

5月に実施した埼玉県学力・学習状況調査の個票は9月にすでにお渡ししています。この調査は、「昨年度に学習した内容がしっかりと身についているか」や「この1年間で学力がどれだけ伸びているか」という観点から実施されています。また、学力調査だけでなく、質問紙による学習状況の調査も行っています。学力については「平均正答率」と「伸びた生徒の割合」の結果を県全体と本校で比較しています。埼玉県教育委員会は、「伸びた生徒の割合」の結果を重視しています。正答率や伸びた生徒の割合が県平均を上回った学年や教科はさまざまでした。質問紙調査の結果は、県平均と本校平均の差が10%以上ある項目を中心に、本校ホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。調査結果は授業改善に活用してまいります。

長年の調査から、非認知能力が高い生徒は学力が伸びる傾向があることが明らかになっています。非認知能力とは、学力などの認知能力以外の力を指し、「自制心」「自己効力感・自己肯定感」「勤勉性」「やり抜く力」などが含まれます。これらの非認知能力は、講義型の授業だけでは育成しにくいと考えられています。本校では、各教科での知識の習得や思考力の育成に加え、非認知能力を育むことを重視してい

ます。そのため、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの授業の実現」とし、授業改善に取り組んでいます。授業のスタイルを、一斉講義型から生徒が自律的に学ぶスタイルへと移行しています。すべての授業を自律学習にしているわけではありませんが、デジタル学習基盤を活用し、多様で大量の情報を扱ったり、思考の過程や結果を共有したりすることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に取り組んでいます。

なお、現2年生からは、県公立高等学校の入学選抜制度が新しくなり、調査書の様式変更、自己評価資料の提出、全ての生徒が面接を実施します。面接では、自分の言葉で自分自身を表現する力が問われます。これからの授業では、受け身ではなく主体的に学び続ける姿勢と、多様な他者と協働する



協働的な学び

力を育むことがますます重要となります。

今年度は、これまでの研究の成果を広く発信する機会に恵まれました。デジタル庁副大臣をはじめ、他県の市教育委員会やエドテック企業（キュビナ開発会社）など、多方面から視察を受けました。2月16日には、この3年間にわたる研究の成果を発表します。

今後も引き続き、「主体的・対話的で深い学びの授業の実現」に向けて取り組み、社会の様々な変化に積極的に向き合い、課題を発見し、他者と協働して課題を解決する資質・能力を育んでまいります。